

<球磨村（神瀬）／住民>

日 時：令和2年10月22日（木）15時30分～17時00分

会 場：神瀬地区多目的集会施設

参加者：11名

【発言者①】

座ったままで失礼いたします。本日は熊本県知事様、そして関係各位、球磨川流域復興局の皆様、被災した球磨村の神瀬の多目的集会所に来ていただきましたこと、誠に御礼申し上げます。

今現在、神瀬地区は、「こうのせ再生委員会」というものを8月末に発足させまして、先週、球磨村役場の村づくり懇談会が8回目で、今週9回目を迎えます。その中でなぜ再生委員会を作ったかというのは、まず住民同士が話し合える場を作ったということ、それとあとは大人数の会議体であってもやはり小さな声、特に女性の声が聞き受けづらいということでこの再生委員会というものを結成しました。それで勝手ながら、県知事様、復興局に宛てた要望書を準備させていただきましたが、皆様、お配りさせていただいてよろしいでしょうか。

神瀬地区の復興に向けた要望書ということで、こうのせ再生委員会を組織しまして、誰が代表になるということでもなく、集った住民だけで開催しております。「神瀬地区復興に向けた要望書」ということで、鏡文のほうを書かせていただきましたが、最後の下2行だけを読み上げます。

「未来の球磨村を担う子どもたちへの道しるべを示していただきたくここに切望いたします。」

さしより住むところが、ダムによる治水、ダムによらない治水の論理の前に、ぜひ住むところを考えていただきたいというものでございます。

先だって球磨川流域の検証委員会がなされたということで、資料等々出させていただきましたが、本流については非常に詳しく書いてあるものの、神瀬地区に至っては、この支流河川については検証がなされていないということをぜひお踏まえいただきまして、ぜひ今後、支流河川、そしてそれ以外の山腹崩壊、土石流による土砂崩れ等をぜひ災害対策、水害対策ということであれば、やっていただければなと思います。

今回の水害は球磨川本流だけではないところで起きております。時間がないので、項目ごとに言います。

1、神瀬地区の生活環境整備、原形復旧についての要望ですが、この神瀬地区に関しては、今なお行政による避難指示というものが出てます。できるだけなら住まないようにしてください等々が言われております。まずもって災害で

被災した状況から、住める環境に戻す。住民に帰ってきてほしいという球磨村村長の宣言と、原形復旧作業を球磨村、県、国、行政に行って欲しいというものがあります。

3ページ。避難場所の整備と、今後の防災についての要望。今後の災害に備えて、避難場所と避難経路、一本ではなくて、多数の経路と、救助ヘリポートを早急に整備してほしい。もともと神瀬地区には、神瀬地区防災センターが建設予定でしたが、その抜本的見直しを図っていただければと思っております。

そして、今回、各家庭に防災無線が設置されておりましたが、停電のためつながらず、聞き取れなかった。そして、各集会所の防災無線も今回使用できなかった。災害時に救助要請できないのでは不安なので、どうか再配備してほしい。

そして、ここは強く言いたいです。情報格差や情報過疎をなくしたい。災害時の情報伝達手段の見直し。アナログとデジタルを融合した集落内の情報インフラの再構築。今回、このような会議をもっていただいたのですけれども、住民の9割9分はこの会すら知らないような状況で行われているので、もしよければ事前に住民に周知していただいて、今日は議員さんも来られていますし、各区長さんも来られていますので、区長さんに「こういう意見伝えてね」ということを、そういう段取りをしていただければ、住民の声がもっと聴けるのかなと思います。

3、仮設住宅等での避難生活、生活再建についての要望。公費解体の申請期限の延長。球磨村役場ならびに県、国の復興方針、復興計画案が示されないと、自宅を修復、再建してよいのか、あるいは、そこに住めないという意味で解体しなくてはならないのかの判断、それが避難中の住民は判断・検討すらできず、決断には至らない。つまり、宙ぶらりんのままであるということでもあります。

めぐりまして4ページ。仮設住宅の入居期限、2年間の延長の要望。現状から2年で復旧することは考えにくい。ということで、住宅地の造成、かさ上げ、河川工事、車道整備、インフラ整備が整うまでは、少なくとも延長してほしい。住宅地ができてようやく、自宅再建を現実的に考えられるのかなと思います。現在の被災したままでは再建のイメージがもてないということでございます。

続きまして5ページ、4番。神瀬地区の復興に向けた現在の要望です。もし住民の民意を聞いていただけるのであるならば、神瀬地区の復興に関しては、このせ再生委員会の行政への参加、国、県、村、一体となった復旧と創造的復興の協議体制を連携して欲しい。ざっくり言いまして、出席していただいて、とりあえず来ていただいて、住民の方の意見を聞いていただければ、それだけで住民さん安心しますので、今、本当に球磨村役場さんが、一生懸命に僕らのことを聞いていただいて、本当に対応していただいています。ですが、やはり素

人目に見ても球磨村役場だけでは難しい部分があり、やはり熊本県、あるいは日本国に対して要望を出していきたいので、ぜひ月に数回でかまいませんので、意見をくみ取りに来ていただければ、住民さんが安心できるかと思います。

5、6ページになります。神瀬地区の創造的復興に向けた要望というものを勝手ながら。

神瀬地区といたしましては、ゆくゆくは人が集う村になるよう検討しはじめます。その中でいろんな、まだ、「このせ再生委員会」では、創造的復興に関する議題で協議したことはありません。ここに創造的復興をテーマにお伺いしたときの聞き取り内容を書かせていただきました。

7ページ、アイデア案。集団避難生活。神瀬地区は5日ほど孤立いたしました。水に関しましては、この件で2か月断水状態が続きました。一番最後の集落に水が通ったのが一応3か月目でございます。今なお被災集落の厳しい部分では、今なお断水しております。そういったことを踏まえて、集団避難生活72時間ではなく、240時間ができる防災センターと避難経路とヘリポートはどうしても必要であり、なくてはならない。

その次、起こり得る災害を想定した安心・安全な住宅地で、いざというときには避難できる集落づくり。道路と側溝の整備ができたらいいなと。

3つ目。子どもとその保護者のことです。子どもたちと保護者が自然のなかで生きることが学び、高齢者とその家族、村外在住の球磨村出身者がこの地で生活して生業を保てるような村づくりをしたい。

あと、その次、ちょっと飛ばしまして、二重丸。新しい福祉の地域モデル、勝手に「村福」と名付けておりますが、新しい村福として、多目的集会所をこのせ温泉、元気食堂、あるいは多目的スペースにしてほしい。新しい村福の村営住宅として、戸建型、集合住宅型、介護型、この高齢者世帯に向けたような、新しい形の村営住宅を建築していただきたいと思います。

そして新しい村福、球磨村ならではの福祉モデルに則ったコミュニティの再生をしたいと思います。あと、いろいろ書いております。

これが「このせ再生委員会」で提出させていただく要望書で、もう一つ、「集落別、支流河川別 被災状況報告と要望書」というふうにさせていただきました。令和2年10月20日現在、現在聞き取り中でございます。僕ら住民ができることは、本当にわずかですが、住民の声をできるだけ紙の媒体に移し替えて、行政の皆様へ届ける役割をさせていただいています。1個だけ読みます。

『球泉洞』 球泉洞は球磨村だけでなく、熊本県、九州エリアを代表する鍾乳洞であり、球泉洞の再生なくして、球磨村観光の再生はないという考え方もできる。球磨川下り、ラフティングなどの早期回復の見通しがいいなかで、球磨村の観光の一番地の復活を住民一同待ち望んでいる。」

今、駐車場には土砂崩れがありますので、そういった部分もぜひ考えていただければと思います。あとは集落別にしておりますが、現在聞き取り中で、皆さん、避難中ですので、なかなかそういった話が聞けないということです。時間長くなりましてすみませんでした。

【発言者②】

ご指名を受けました〇〇と申します。

本日は、蒲島知事、関係各位の皆様、神瀬までおいでいただきまして、誠にありがとうございます。今回会議にあたりまして、自分なりに考え方等を少しだけお話をさせていただきたいと思っております。今回7月の豪雨によりまして、球磨村、神瀬、甚大な被害を受けております。災害発生以来、今日まで村の職員も心身のダメージも非常に受けながら、精一杯対応に取り組んで頑張ってきております。

また、国、県、両方からも心強い支援、サポートをいただいておりますことに本当に心から感謝をいたしておるところでございます。そのような状況のなかで、先日から仮設住宅の建設もありまして、ほぼ大体、仮設も完成いたしまして、これからが村の復旧・復興、住民の生活再建が本番だと思っております。

私個人の意見と思いといたしましては、今回の災害は、全ての方々の様々な思い、考えを大きく上回る想像しえなかった自然災害ではなかったかと私は考えております。県といたしましても、先ほど、蒲島知事の対策のなかにもありましたけれども、災害からの復旧・復興、そして治水の方向性と、大きな問題などを持っておりますし、治水の検討といたしましては、住民の様々な気持ち、考えがあり、難しい問題だと思っております。

そのような中において、蒲島知事をはじめ、大変知事におかれましても、心の負担の大きいものがあると思っておりますが、会を通して多くの意見をお聞きいただき、安心、安全に向けた取り組み、対応をお願いしたいと思っております。

今回の被災は、球磨川の氾濫もありますけれども、同様に、先ほど、〇〇さんからのお話がありましたように、川の支流地域においての山腹崩壊、支流の氾濫の大きな要因の一つであろうかと思っております。そのような中において、先ほど話に出ておりましたけれども、支流においての検証も必要なことではないかと私は思っております。

先ほど説明がありました「くまもと復旧・復興有識者会議の概要について」ということで最終ページに書いてありました委員の方の文章にもありますけれども、この神瀬地区、球磨村全体ですけど、当然ながら、ハード面だけでなく、球磨村の、ご存知のように渡の千寿園さんが災害で被害を受けました。そのようなこともありまして、高齢化が進んでおりますこの球磨村において、人口の

減少において、高齢者や障がい者の全ての方が安心して暮らせるようなサービスを手掛けるような、そのような施設、そのようなことも大変重要になってくるのではないかと考えておりますので、その辺も強く私は述べておきたいと思っております。

時間が限られておりますので、村の復旧地域においての生活の再建は、これから本番だと思っております。地域全体での地理、地形、それらのことを踏まえた上で、広い視野をもって、復旧・復興に取り組みを対応いただければ、私としてはありがたいと思っております。

以上で私の発言を終わらせていただきます。

【発言者③】

〇〇です。ダムの撤回、川辺川ダムが平成20年ですか、その後、ダムによらない治水対策、またはダムによらない治水を考える等々、いろいろ検討がされてきました。また、いろいろな事業がなされてきました。近頃の新聞によりますと、ダムがあったなら6割の水位を下げられるといたことがなされております。であるならば、12年前にはそのようなデータは流れなかったのか、であれば、そのときにはなぜ。また、そういうことを私が思うわけです。

今後とも、県知事の意見も、考えもあるかと思えますけれども、なぜそのようなことになったのか疑問に思うわけです。また神瀬地区にしましては、ご覧のとおり山があるだけでございます。依然、高台に宅地造成というのはとても難しいと思えます。でありますので、今度浸水した地域を是非かさ上げをしていただければと思えます。それしか方法はないのではないかと思えます。

今度、上の谷から、和田地域まで、全てをかさ上げ、そのようなことが安心ではないかと思えます。ダムがあってもなくても、このように、ご覧のように、このようにならないように、対策を考えてじっと待っております。

【発言者④】

はじめまして。この席に出席させていただいたこと、緊張しております。私が〇〇として担当している地区は、ちょっと神瀬地区とは少し離れておりますけれども、隣接する松本、小谷、向淋があります。生活環境が一緒なものですから。今回の水害については、5日の朝一番に大坂間地区を視察に行ったのですが、大変な水害で跡形もなく家ごと、道ごとなくなっているものだから、ここの目撃した限りでは大変な状況でした。災害の意見については、7月の6日までは県道の球磨川沿いがなかなか復旧させてもらえなかったので、生活基盤が全く作れなくて大変苦労しました。

今の時点では、なんとか生活は、どうにか住居のほうは確保できていますけ

れども、神瀬地区のことを考えるにあたって、以前から神瀬地区というのは、支流と球磨川、瀬戸石ダムの関係の地形上の堆積を毎年行っていますけれども、その付近のダムの管理というか、いろいろあるんじゃないかと思います。

それに小学校辺りは以前もしょっちゅう浸水してました。瀬戸石ダムに関しても私個人の意見ですけれども、ありましたので、その付近を今後の対策としては一つ考えてもいいんじゃないかと思います。

この地区の住民の方々はほとんどもう、仮設住宅やらに移転されて大変厳しい状態であると思いますけれども、一日も早く県知事様のご指導の下に復旧作業が進んでいきますことを願っております。言葉が足りなくてすみませんでした。今後ともぜひ復旧作業の推進に努めていただきたいと思います。

これで終わります。すみませんでした。

【発言者⑤】

皆さんこんにちは。16区の〇〇と申します。

7月の豪雨災害で尊い生命財産、インフラ、地域、コミュニティなど、全ての被災者は心身ともに疲れ果てまして、先が見えない状況のなかで、人生の岐路に立っておられます。先般も住民のアンケート調査が行われましたけれども、9割近い人が災害以前と同じ生活に戻りたいという回答がなされております。

今後、復旧、復興といたしまして、復興をしていくなかで、高台移転、あるいは宅地のかさ上げ等生活基盤の整備が急務であると思います。

豪雨災害の検証委員会の結果、川辺川ダムによる浸水被害の軽減、効果が示されましたけれども、その必要性について十分理解できませんけれども、全ての被害は防げないというふうに思います。治水、安全性を高めるためにやれることは全てやっていただきたいと思います。球磨川支流の治水対策も同様に実施するとともに、温暖化、気象変動による降雨量の変化等を反映した地域流域の治水を同時に進めていただきたいと思いますというふうに思います。

【発言者⑥】

本日はこういう会を開いていただきましてありがとうございます。

私は、第19区の〇〇をしております〇〇と申します。

第19区は、今現在、この神瀬多目的から八代に向かって約10キロ、八代の境界までを第19区となっております。ただ、ここの神瀬から先は道も狭くなっていて、集落も5つ、1キロから2キロ、離れてるところは3キロ離れております。

そういう集落で、3世帯とか5世帯とか7世帯とか10世帯とか、多くて10世帯です。そのぐらいの人数で生活しております。水害が、今までは手前

の一番神瀬に近い簸瀬というのがあるんですが、そこが浸かるようで、球磨川から浸水することがありましたが、それから先は今まではほとんど浸かったことがなかったんですけれども、今回の水害ではほとんど上郡地区以外は全部浸かっております。4地区です。それも今現在も家の中に土砂が入ってきて、見るも無残な家の様子です。住んでいらっしゃった方は本当に心が痛いなと思います。

もう少しはずれたところには家もありますが、ぜひ家に皆さん帰って、やはり家財道具やら何やら見たいと思うので、土砂の撤去をお願いしたいと思います。みんな神瀬に帰りたいという意見を聞きますので、ぜひ家の中の土砂を撤去していただいて、家の確認をさせていただければと思います。

簸瀬地区もありますし、伊高瀬地区にもあります。多武除がすごい状態になっておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

そして、治水対策については、みんな神瀬に帰ってきたいので、こんな心配がないように、完全な安全、安心で住める村づくりをしていただきたいと思います。

私たちの方法は、どれがいいというのはわからないんですけれども、確実に治水できる対策をお願いしたい。そして、それを早急をお願いしたい。やはり日にちが経ちますと、1年、2年ぐらいたったら待てるかもしれないけれどもそれ以上かかると、なかなか帰ってきたいという気持ちも萎えてしまいます。できるだけ早く治水対策の方向性を示していただければ、それに応じて住民は「じゃ帰るためにはどうしたらいいのか」ということを考えていくと思いますので、ぜひ方向性を早く示していただきたいと思います。

そして、もう一つの要望としましては、先ほど浸水、洪水はなかったけれども、国道がここから先は狭いので、ちょっと雨が降ればすぐ道路の崩落、あるいは山腹崩壊で通れなくなります。昭和40年の災害のときも、私は、4キロ近くを歩いて、往復8キロですね。歩いて通ったこともあります。やはり、道というのは大切ですので、球磨川に沿って国道ができていますので、難しいと思いますが、ぜひ日本一災害に強い国道、219号線を作っていただきたいと思います。ちょっとの雨では崩れない強い国道にしていきたいと要望いたします。

そして、一つこれは私の反省点、反省しているところではあるんですけれども、私は4月から〇〇になりましたけれども、前区長さんと話してたのが、自主防災組織、これを作ろうねと言って、コロナのウイルスで防災会議が中止になったりしたもんですから、作ってなかったんですよね。なので自主防災組織を作っていれば、もっと避難をするのにも道標ができたのではなかろうかと思えます。

うちの地区でも一集落だけ作ってらっしゃって、その自主防災組織を作ってらっしゃるところが中心で避難場所になりました。伊高瀬というところなんですけれども、簸瀬と上薮はそこに避難しました。

やはり自主防災組織を作って、意識を高めてたおかげでいろんな防災のことについても詳しくて、電気がなくても電球を作って頭につけるのや、いろいろなものを持ってらっしゃって、本当に助かりました。やはり自主防災組織というのは大切だなと思って、みんなが帰ってきたらすぐ自主防災組織を作って、防災意識、自分たち自身も自覚してやっていかなくちやいけないかなと思っております。

【発言者⑦】

球磨村森林組合〇〇をしています〇〇です。

まず、この前蒲島知事が人吉のお見えになったときに、いろいろ要望したりしたなかで、その後で私に「〇〇はダム反対派なんですか。」という言い方を随分されます。この地区まだ新聞を配達される状態じゃない。新聞をずっと見ていなかったものですから。娘が携帯でそのページを見てましたので、読んだところ、ああ、そういうとられ方をしたのかなという感じで。私は知事には、知事さんも大変ですね、と。ダム、遊水地の建設、そして例えば八代、芦北方面に球磨村の洪水時に水を流すバイパス等も考えられるということで、しかし、どれをとっても県民の皆さん方にご迷惑をかける事業になるんだということで、知事さんも大変だろうけれども、ぜひ一つ一つ前向きに解決していってくださいと言ったつもりだったんですけれども、取り方では反対のほうについてしまったのかなと。先日、森林組合の役員会がございまして、理事からもそのようなことを言われましたので、私は〇〇として、私個人としても、ダム反対とか賛成とかそういうことを言ったつもりはございませんということで。ただ、ダムは状況などもありますので、例えば人吉でこの前の水害で、1メートル何十センチ、2メートル近い水流を下げるのが川辺川ダムがあればできるという記事が資料に出ています。

例えば、1メートル20でも、2メートルでも、水位が下がれば今度の水害で床上浸水にはならなかったという家庭も随分あるんだろうというふうに思います。じゃ、それだけでも救えるのであれば、それだけでも住民の方は喜ばれたんじゃないかなという感じがしております。

今後も、いろいろな難題があるんだと思いますけれども、ぜひ住民の皆さん方が安心できる球磨川、球磨村にしていただければというふうに思います。

先ほどからいろいろ話がありまして、我々が消防団に入っているときは、雨が降ればこの神瀬地区も浸水地帯も生活用品を上げる、上に少しでも上げると

いうことをやってもらえます。

やはりお年寄りの方々はあんまり上げると、あんたたちは上げるのは上げて、終わったあとには降ろすようにと今度は言われましたので、今度は絶対来ますからというふうに言って終わりましたところ、その次見回りに行ったところ、全部ひっくり返ってしまって、電化製品、子どもたちの机とか全てがそういう状況で、その復旧にしても、消防団が国道まで全部洗ってしまって、きれいな状態にして戻すというようなことをやりました。

そのときはこの神瀬地区で110名くらいの消防団がいたんだろうというふうに思います。今では全て入れて30名いるか、いないかで人的な備えも少なくなっているということでございます。今後は村とか、県にお願いしながらしか進めないのかなという感じがしております。

うちの家内が、もうここには住みたくないという言い方をするわけですね。生まれたところでもないし、そういう気がいたします。私はお盆に3日ぐらい帰りましたけれども泊まりは八代に行ってたんですけれども、やはり家に帰りますと、いいなという感じがする。この頃、夫婦喧嘩しますが、毎日のことと言い合いになりますので、それも夫婦の絆を深めている意味でもいいのかなという感じがしております。

今まで見たこともない水ですので、今度雨の水が出るのか出らないのかもわかりませんが、住むほうにとってはこの前の水害の水位よりはもう少し高いところに家を建てたいというのは事実なんだというふうに思います。後はそういうことができるのであれば、原形復旧ではなくて、より改善した復旧をやっていただければというふうに思います。

私は〇〇ですので、この前も被災している製材所、球泉洞等の復旧により、県、国の皆さん方のご協力をよろしくお願ひしたいということで申し上げます。本当に百何十名かの職員、従業員がいるわけでございますので、一部は一時開放しておりますけれども、なるだけ早く復旧して、元の職場に帰っていただけるように我々も努力をしてもらいたいと思いますので、検討のうえ、ご援助をよろしくお願ひしたいと思います。終わります。

【発言者⑧】

はい。皆さんお疲れ様です。

消防団〇〇の〇〇でございます。

消防団という立場からお願いなり、要望なりさせていただきます。消防団には実動員が219名おまして、発災当時出動要請がありまして渡、神瀬地区の分団で出動しました。それぞれ、消防団のなかで、渡地区の千寿園のような災害があつて、そのなかでも地域の住民、また職員の皆さんと協力しながら消

防団員のほうも救助活動を行っております。

自分の命を省みず、水の中に飛び込んで救助をしております。また神瀬地区においても急激な増水によりまして、取り残された避難住民の方がおられます。そのなかでも神瀬地区は保育園がございまして、保育園の仮設のプールがあります。それを使って取り残された住民の方を2階からとか、屋根の上からとかいう避難、救助する活動を行っております。我々消防団においても自らの命をかけながら救助活動を行っていく、私も、よくやったとか、きつかったな、大変だったなというふうに思っております。

そんな中、被害につきましてこの神瀬地区、また球磨村においては、ポンプ積載車が16台ございます。そのなかでも積載車4台が被災をしております。土砂が流入し使えない状態。また、浸水して使えない状態。4台が今、積載車が使えない状態で、小型ポンプ車においても2台が使えない。いったん災害が起きると、ポンプが使えない状態で、火災などに行っても、なかなか今、活動ができない状況にあります。また、道路面におきまして、こちらの道路もいろいろデコボコ道で、ダンプが通って土砂の搬出をされております。確かに助かっておりますけれども、そういう状況のなかで火災とかが発生しますと、なかなか行けないというような状況でございます。また、橋等も流出して、一つの集落では遠回りして行かなければならない状況でございます。

そういった面で、機材、そういうポンプ等の補助の件、または県または国の方にもお願いをいたしたいと思っております。

先ほど、ダムの話もございました。この資料のなかにもありますが、ダムができてまた、増水が進むようなかたちで通っておりますので、そのなかで増水しても、我々が住めるような状況のかたちをどうか作っていただきたいと思っております。

先ほどからご意見があるように、神瀬地区、球磨村、村民みんな、元の村に戻りたいという気持ちが、それぞれ思っておられます。90%ぐらいそういう気持ちを持っておられますので、どうか県、国のご助成をいただいて、元の球磨村に戻していただくよう、どうかお願いをいたします。以上でございます。

【発言者⑨】

皆さん初めまして。〇〇と申します。今日はこのような場に立たさせていただいて、皆さんの声が、私のいろいろな思うところと、届けさせていただくこと、とてもありがたく思っています。

何点かあるんですけれども、先ほど〇〇さんがお出しされた要望案のほうに、かなり、私も思っていたところは記載してあるので、そこは割愛させていただきますが、治水についてという部分、支流の検証をやはりしていただきたいな

というのは強く思います。

やはり、ここの川内川の上流もそうですけれども、球磨村には79の集落があります。かなり今回はここの川内川に限らず、中園川とかいろいろなあちこちの川の上流のほうも、なかなか報道されない状態のまま置き去りにされている地区というのも今だに実はあると伺っています。

私も現地のほうになかなか行けてないんですけれども、今回は球磨川本流のそのゲリラ豪雨による河川の増水というのも非常に深刻であったと思うんですが、この地域なんかにしても、河川プラスの、でもそれよりも先に支流のほうからの土石流、山津波が押し寄せていたことによって、支流の川の流れが全く変わり、そして向こう側の、あちら側に通りがあるんですが、この辺一帯がもう川状態になってしまった。行き場をなくした水、それがもう地区に流れ込み、なおかつ20年ぐらい前でしょうか、ずっと国道219号線は河川行政の一環でかさ上げ工事をしていただいていたんですが、かさ上げをして、国道が数メートル上がったことによって、その道自体がこの神瀬の集落のこの人吉側から下るような道になってしまっているんです。このエリアが窪地になってしまっている形状になっている。その部分というのも非常にやはり問題があったと私は見えています。

支流の検証をお願いしたいというのと、この地形という意味でかさ上げとか工事を、道路、直せるときには今後そういうことがないような形に、安心して暮らせるようにしていただきたいというような、あと、私は全然詳しいことはわからないんですが、こちらの資料を拝見したときに、川辺川ダムがあった場合とか、ダムによらない場合とか、そういう冒頭に書いてあったりしますけれども、荒瀬ダムが撤去されたことによる今回の水害でどうだったのかという検証というのは何か、私がちょっと不勉強なので、よくわからないんですが、撤去したところでの検証というのも、何か情報があつたら出していただけたら、いろいろな場面で皆様の参考になるのかなと思ったりもしました。あつた場合、なかつた場合、多分どちらも情報としては必要だし有益だと思います。

それから今回とても思ったのが、やはり、自治体による指定避難所というところを見直ししてほしい。皆さんが今、私たちは今、ここは神瀬地区の指定避難所だったわけですね。あれだけの雨が降っているなかで、地区の皆さんは心細い思いをしながら、ここに集まって肩を寄せ合いながら、もしもそのままここにいたらと思うと本当にゾッとします。

やはりここは、土地が限られているというなかでも、この場所だったり、あとはここの川を越えたところに防災センターが計画されていたと、濁流が流れるなかで、高齢者だけの集落で、一体どうやって川を越えて、そこに防災センターがあるから、指定された避難所だから、そこに誰がどうやって逃げるんだ

ろう。私は最初その防災センターができるんだけどという話を母から聞いたとき最初耳を正直疑ったんです。

今回、幸いにもそういうことになる前に水害が来てしまったわけですが、やはりいくら土地がないからとか、予算とかいろいろ限られた制約があるかもしれませんが、人命第一ということで、経済と命を天秤にかけることは絶対にしてほしくないと思住民としては思います。

そういうふうには、やはり防災施設の見直し、あとは指定避難所の見直し、あとやはり避難経路の確保、その部分新しい復興計画の中では、神瀬に限らず、どの地域でもやはり一人でも多くの方々が安心して幸せに暮らせるようにお願いしたいと思います。

次に、私はこれからの創造的復興という部分で、球磨村や熊本県というのが、防災教育に力を入れてほしいと思っています。今まで熊本地震もありました。秋になれば毎年すごい台風がやってきます。梅雨の時期には今年のようなすごいゲリラ豪雨、今年に限らずこれからも恐らく来ると思っています。そのなかで、コンクリートによって、ダムを作る、作らない。それは私はどちらがいいとか悪いとかは申し上げませんが、守ることも大事ですけれども、私の年齢よりも子どもたちの世代というのは、これから少なくとも私たちよりも数十年先を長く生きる可能性があるわけで、このまま地球温暖化が進むのであれば、やはり子どもたちは、より、そういういろんな災害とかにも直面する機会がないとは言いきれないわけです。それは地震にしてもそうですし、水害にしても台風にしてもいろいろあると思うんです。でもその度に危ないからダメ、川は危ないから近寄らないでとか、守ることを考えていくと、思考停止に陥ってしまうのが一番怖いなと個人的には思っています、今までこれだけ大変な思いをして、しかも皆さんが力を合わせて、消防団の方や行政の方、地域の方、一生懸命一人でも多くの命を救いたい、そして皆さんも大変ななかで生き延びてこられた。これをやはり今後に生かすためにも、子どもたちに危ないからここには住まないという考え方ではなく、神瀬に住んでいたら、球磨村に住んでいたら、逆に、もうそういう何が起きてても自分で考えたり、たくましく生き抜いていく力を持っている子どもたちになってほしい。そういう子どもたちを育てられるような、そういう防災の分野でも、熊本県や球磨村というのは、いろんなそういう、これまでの知見がいろんなものがあるのではないかと思っているのです、そのあたりを創造的復興というところに取り入れていただけたらいいのではないかと、ちょっと思っています。

あと、最後にもう一点、とても今回感じたのはやはり、情報の格差です。球磨村はやはり、どうしても高齢者の方が多く、SNSやインターネットを使っ

デジタルデバイドをどうするかというのは、日本全国どこでも、今、もちろん課題だと思うんですけども、今回情報が行き届かないで、情報が発信できない。そしてこういうふうに報道とかいろいろされても、実際に皆さんコメントしても自分が載った新聞やテレビとか、見た方とかほとんどいらっしやらなかったわけですけども、生活情報にしても何にしても、なかなかやはり災害から2か月経っても3か月経っても、非常に情報の部分でご苦労している高齢者の方たくさん見受けられました。とくに神瀬の場合は今回分散避難でした。分散避難で、この土地にいたときには、サンダルを履いてすぐそばだから、皆さん対面でいまもお話されてましたけれども、その近さがあったゆえに、実は携帯電話番号すら知らないという状態だったんです。

ですから、その後にバラバラになった後にこの地域の方を探しあてて、所在や名簿を確認するという作業、行政の皆さんも本当に大変だったと思います。やはりこれからはそういうことでは、最先端のIoTとかAIを駆使しつつ、その一方で、アナログな部分のつながりを大事にしながら、情報格差をいかに埋めていくか、情報過疎をいかになくしていくか、そういう部分での最先端のモデルになるような村になったらとても魅力的なんじゃないかと思っています。

みんなが誇りを持って帰ってこれる村になればいいなど、心から願っています。どうかよろしく願いいたします。

【発言者⑩】

はい。私、神瀬地区の〇〇といたします。

私も、4日の朝早くから消防の方々、一生懸命回って、この水害に対して対応してきたわけでございますけれども、私が今感じていること、一日も早く、神瀬の人たちが帰りたいたっておられます。ですから、その対応というのを一日でも早く計画をされて、私たちはこの村に早く住みたいです。私もそう長く待てません。もう77歳になりましたから、この後、ここで生活するかということを、少しでも早くみんなとここで住みたいということで、村の方々にも前回話をいたしました。講演会のなかでも、それぞれ意見を求めて一生懸命先ほど〇〇さんから意見をされました。そういうことを少しでも、一日も早く対応していただきたいと思っています。住宅も仮設団地も2年くらいしかないということでございますが、しかしその2年間のうちに、ほぼここに住める、神瀬に仮設団地ができて住めるんだったら、早急にここに対して大至急、取り組みをお願いしたいと私は思っております。

【発言者⑪】

皆さんこんにちは。お疲れ様でございます。今日はありがとうございます。

私は神瀬の郵便局の〇〇をしております。皆さんの3地域、渡、一勝地、神瀬という地域です。もともと3村合併ということになったという地域なんですけれども、非常のこの神瀬は他のところと比べて距離があります。中心に対して、ちょうど八代と人吉の間。買い物、金融、それから生活の基本的なところ、そういったところがなくなると、もちろん警察も派出所もないという治安の部分もあるんですけれども、そういったところをいかにして、存続させていくか。そのためには水害にあわない地域を作る。それに尽きると思うんです。だから100%というのは自然災害相手には無理と思うんですけれども、今皆さん方が考えてらっしゃるようなことをもう一回抜本的に根本から考え直して、今たくさんの意見が出ましたけれども、浸からない地域を作る。これしかないと思います。でないと金融機関もそこには建てることができない。一応、建てるのに3千万から4千万の資金がかかりますので、床上浸水したら機械が全て浸かるんです。そうするとまたやり直すと。そういう局もいっぱいありますけれども、渡局なんかまだまだ復旧に入っていません。この下の上松求麻郵便局、坂本郵便局もまだ復旧ができないという状況です。お金がおろせない地域に、人が住めるのかということも、私の立場として一言だけ言わせていただきました。ありがとうございました。

(以 上)